

『賃労働と資本』を学ぶ

第8回 四国ブロック

資本とは何か③

司会 6月号・7月号でレポートと討論を行った3章「資本とは何か」は、今号で終わりになります。③搾取の仕組み（P 60・10行目〜P 64・6行目）について、香川県協のMさんにレポートをお願いし、討論に移っていきます。

資本は労働力によって増殖する

M 資本家と賃金労働者との間の交換では、どういふことが起こるのでしょうか。労働者は、彼の労働力と交換に生活手段を受け取ります。資本家は自

分の生活手段と交換に、労働を、労働者の生産的活動を、創造的力を受け取るのです。

労働者は、その労働、生産的活動、創造的力によって、彼の消費するものを補てんするだけでなく、蓄積された労働に、それが以前に持っていたよりも大きな価値を与えます。

この貴重な再生産的力を、労働者は、資本家から受け取った生活手段と交換に資本家にゆずりわたすのです。本文の借地農業者と日雇い労働者の例をとって説明してみます。

①借地農業者が日雇労働者に5Gロシ

エン（以下G）を与え、労働者は終日働き、10Gをもたらず。↓借地農業者は投資する2倍の価値10Gをもたらず労働者を5Gだけで雇うことができました。

②日雇労働者は生産力の働きを譲り渡して5Gを受け取る。この5Gを生活資料と交換し、消費する。↓この5Gは資本にとっては10Gを生み出す再生産費のために消費された。

③労働者にとっては1回消費するだけの不生産的に消費された（再生産のためには同じことを繰り返す必要がある）。



これを見れば「資本は賃労働を前提とし、賃労働は資本を前提する。それらは相互に制約しあう。それらは相互に生みだしあう。」ことが分かります。ある綿布工場の一労働者は、綿布を生産するだけでなく、資本を生産します。すなわちまたもや彼の労働を支配

し、この労働を手段として新しい価値をつくり出すのに役立つ価値を生産します。ここでは剰余価値を生み出す拡大再生産のことをいっています。

資本は、労働力と交換されることによってしか増えることができません。賃金労働者の労働力は、資本を増やす

労働者は労働力以外に売る物を持たない

ことに、また自分を奴隷としていて資本の権力を強めることによってしか資本と交換されることのできないのです。したがって資本が増えるということは、プロレタリアート、すなわち労働者階級が増えることであるのです。

ブルジョアや経済学者は「資本家と労働者との利害は同一だ」と主張します。その意味は、「労働者は、資本が雇ってく

れなくては破滅する。」「そして資本は、労働者の労働力を買い、搾取しなければ破滅する。」ということです。

生産にあてられる資本（生産的資本）が急速に増えれば増えるほど、産業は繁栄し、ブルジョアジーが富めば富むほど、景気が良くなればなるほど、資本家にはそれだけ多くの労働者が必要となり、労働者はそれだけ高く売れることとなります。労働者の需要が多いため賃金が上がるといいうことです。

賃労働者が賃労働者である限り、資本に依存する

MⅡ資本の増大、それはつまり、生き残った労働（現在の労働）に対する蓄積された労働（過去の労働）の権力が増大することであり、労働者階級に対するブルジョアジーの支配が増大することでもあります。

労働力のほか生産手段も何ももたな

◆みんなの学習講座

い労働者は、生きていくために働き続けなければなりません。労働によって賃金を得ることはできるが、その労働が資本をますます増大させるのです。敵対する資本の富の増大のために否が応でもその生産に加わり、労働をやめることができないという矛盾がそこにはあるということを行っています。

「資本と労働者の利害が同一であり」というのは、賃金労働者である限り彼の運命は資本に依存しているということであり、資本と賃労働とが同じ一つの関係の二つの側面であることを意味するにすぎないのです。

資本家と賃労働者の交換で

何が起るのか

司会「まず「資本家が5Gを払って労働者を雇い、10Gの収入を得る」というところですが、重要なところだと思えます。みなさんの理解はどうで

ようか。

Y「資本家と賃労働者との交換において何が起るかということですね。」

K「ここでわからないのは、「日雇人の労働と力を買ったのだ」というのですが、この労働と力という2つに分けて書いてあるけれども、ここがすんなりと理解ができないのですが。」

Y「労働力ということでは理解していいのではないかと思えます。」

H「資本家が、日雇人を買ったという労働と、価値を増やすという不思議な力を買った。結局は労働力を買ったということですよ。」

K「労働は成果として現れます。日雇人が何キロ収穫をしたとかいう成果と、それをつくり得る力を買ったと私は理解していました。」

T「資本家は、賃金を支払う時には「労働」を買ったと言います。一方労働者側は「労働力」を売っていると言います。対立を強調するために、あえ

てここで分けていたのではないでしょうか。」

司会「青年部のメンバーは何か質問ありますか。」

A「気になったのは、生活手段という表現です。賃金のことだと思うのですが、「資本家は自分の生活手段を交換して・・・」とありますが、これはどういうことですか。」

Y「その人に必要な生活手段とは、労働者の場合は賃金です。資本家の生活手段、つまり労働者がつくり出す剰余価値であり、そのなかから次の労働の対価を支払うのです。つまり生活手段とは、労働者側から見れば賃金であり、資本家側から見ればお金です。」

K「資本家が自分の資本をどう使うかは勝手ですが、さらに儲けるためには労働者を働かせて再生産をする必要があります。つまり賃金を労働者に与えなくてはなりません。言わば一時損をする訳です。しかし労働者はより大き



資本家は労働者から労働力を買い、労働させて富を得る

ですよね。そこで前半部分のまとめですが、「資本は賃労働を前提とし、賃労働は資本を前提とする。それらは相互に制約しあう。それらは相互に生みだしあう。」というところが大事です。資本は賃労働がないと増殖していかないし、生産手段を持たない労働者は、賃金を得ないと生きていけないということですよ。YII相互に生み出し合うというのは、単に資本を再生産するということだ

な富をつくり出すので、結局のところ資本家は得をするということですよ。その繰り返しですね。

YII資本家は投資をしたのかもしれないが、結局資本は、社会の富はすべて労働者が生み出したものなのです。資

本主義社会においては社会的分業制で非常にわかりにくくなっているのが特徴です。

司会II 5G投下して、10Gをつくり出す。本来は10Gつくれるなら5Gと言わずもつとよこせと言っても良い

けでなく、資本家階級と労働者階級というこれらの階級も再生産していくことだということを付け加えておきます。

利害は同一なのか

司会II それでは「資本家と労働者との利害は同一だ」というところに討論を移していきましょう。

KIIここに書いてあることだけを基にすれば、資本家が儲かって、例えば労働力の再生産費である生活費を、過不足なく賃金としてもらえたとするならば、資本が発展していけばそれは増大していくということと両立していくことになりません。資本家は儲かり、かつ労働者の生活も一定の関係を保たれていけるというのは事実だと思います。ここではそこまでしか書いていないと思います。ただ最後に、そうは言ってもどちらが支配者側かというところは書かれていますね。ただ資本主義の発

◆みんなの学習講座

展は労働者の生活に寄与している、お互いに成り立っているというところは認めています。

YII そのなかで、だから、労働者の状態がかなりであるための欠くべからざる条件は、と書かれています。そこが先ほど言っていた資本主義の発展にあるところですね。ただ、日本でも高度成長期に労働者の賃金が大幅に上がりましたが、それでも実際は価値通りの賃金は支払われていないのです。HAII 確かにそうだろうと思います。現在、労働者の取り分が少なすぎるのではないのでしょうか。資本家が儲けた大半を取り、ほんのおこぼれだけを労働者に渡すという、この社会的構造を変えていかないといけない。賃上げ闘争を労働者の階級的なたたかひに引き上げていく必要があるのではないのでしょうか。資本の搾取は厳しさを増し、労働者は生活すら成り立たず、窮乏しているのが現状ではないかと思えます。

MII 賃上げを要求した時に会社側は、会社が儲かっているからこそ会社が成り立つのだから、その儲けの行き先はまずは設備投資、労働者の賃金はその後だという主張です。本来賃金は生活給であって、自分だけでなく、家族の生活費や老後の生活などを含んだ形で賃金要求をしなくてはいけないが、今もなおそうなっていないのが現状ですね。

KII しかし労働者間でも競争になるということを前章で学びましたね。奴隷に近ければ近いほど使ってもらえるので、結局自分の労働条件を下げてしまう結果になります。

司会II 資本は、労働力と交換されることよってのみ、賃労働をうみだすことよってのみ、増殖される。賃労働者の労働力は、資本を増加させることよってのみ、それを奴隷のように使う権能を強大にすることよってのみ、資本と交換される。だから資本

の増加はプロレタリアートすなわち労働者階級の増加である。ということですね。

YMI 拡大再生産により設備も増え工場も大きくなってきたら、それだけ労働者も必要になるし、さらにその際により搾取した労働条件で雇うことによってさらに資本は増えるということですよ。

YII そしてそのことをもって、ブルジョア経済学者は、資本と労働者との利害は同一だと主張すると、そしてマルクスも事実上そのとおりだと言っています。

司会II 先ほど議論で出たところは、2章で学習した関係性のところですね。「ブルジョアジーが富めば富むほど、景気が良くなればなるほど、資本家はますます多く労働者を使用し、労働者はますます高く売れていく。」と、買手と売手の競争により、労働者の需要が高くなれば、賃金は上がるといこ



フリードリッヒ・エンゲルス

とです。
Y II 「資本の利害と労働者の利害とが同一だということは、資本と賃労働とは一個同一の關係の両面だということの意味するにすぎぬ。」ということ「賃労働者が賃労働者であるかぎり、彼の運命は資本に依存する。」ということです。放蕩者と高利貸の話があるけれども、高利貸が生きていけるのは、放蕩者が無駄遣いをするからであり、

放蕩者も高利貸がいるから無駄遣いができる、この程度の利害の一致であると書かれています。

司会 II H Aさんが熱く語ってくれた賃上げ闘争を階級闘争に引き上げていくということ、資本主義社会を是認してはできません。この社会を変えるために労働者は立ち上がらなくてはなりません。そしてそれには私たちが地道に学習し組織していく必要がある

ります。それでは最後に価値を生み出す特殊な商品である労働力について、エンゲルスの前書きの一部分を引用し、三章の終わりとします。

○エンゲルスの

前書きより

「労働力は我々の今日の資本主義社会では一商品であり、どの他の商品

とも同じように商品であるが、しかしながら全く特殊な一商品である。すなわち労働力は、価値の源泉だという、特殊の属性たる価値創造力をもっている。・・・今日の生産状態のもとでは、人間の労働力は、一日間に、それ自身が有し、且つそれ自身に費やされるよりも大きな価値を生産するだけではない。労働力の一日の費用を超える、労働力の一日の生産物のこの過剰は、あらゆる新たな科学的発見、あらゆる新たな技術的発明とともに増大し、したがって労働日のうち、労働者が自分の日給の代償を働きたす部分が短縮されたが、つてまた、他面では、労働日のうち、彼が資本家に対し代償を支払われないで自分の労働を贈呈せねばならぬ部分が延長される。そしてこれは我々の今日の全社会の経済的狀態である、——労働者階級だけがすべての価値を生産するのだ。」